

東京桑野会会報



ご挨拶

東京桑野会会長
古川 清

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

21世紀の幕開けです。新しい世紀を迎え東京桑野会の
大いなる飛躍を期待したいと思います。

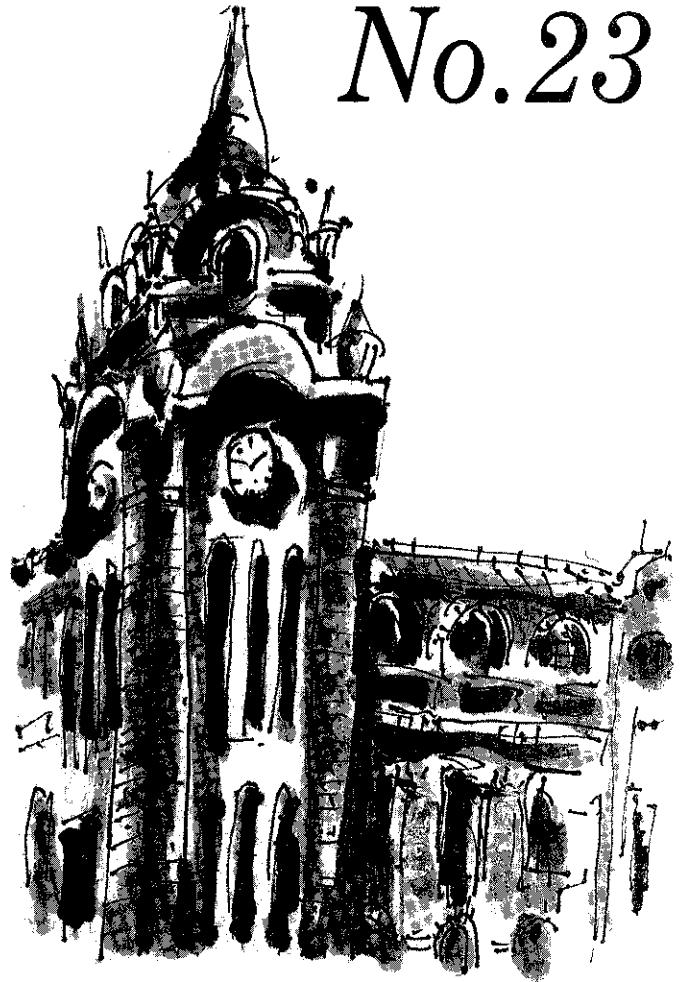
日本にとり20世紀は恵みの多い100年でした。前半に
こそいくつかの戦争と経済的混乱があり、敗戦という未
曽有の体験もしましたが、後半は平和に恵まれ、経済的
にも発展し今や生活水準は世界有数のレベルに達しまし
た。もっとも発展の成功と共に多くの新しい問題も生じ
ています。少子化、失業、青少年犯罪等々、数えあげれ
ばキリがありません。しかし、長い日本の歴史の中で問
題のなかった時代などはなかったのですから「21世紀よ
幸多かれ」と祈る気持で一杯です。

安積も21世紀に入り3世紀に亘る歴史を持つ老舗の高
校になりました。その間学制改革により旧制中学校から
新制高等学校への衣更えがありました。県内有数の進
学校として数多くの人材を養成して世に送り、それぞれ
県内及び全国各地で活躍しておられるのは御同慶の至り
であります。21世紀においても、卒業生として安積精神
を守り、互いに結びつきを強めて安積に学んで良かった
と思う人生を送って行きたいものと思っています。

東京桑野会にとりましては会報の発行と総会の開催が
主要な活動ですが、会員各位の御協力により何れも順調
に推移しています。今後の課題としては新会員、特に若
い世代の発掘と勧誘が考えられるのではないでしょ
うか。私もその経験がありますが、思いがけないところに
安積の学友がいるものです。年に一回の総会が世代を超
えた真の親睦の場となるよう会員諸兄の御協力を願って
止みません。



No.23



イラスト：久富良子（安女高6期）

東京桑野会定期総会開催のお知らせ

東京桑野会のメインイベントである、定期総会と懇親会を開催いたします。多数の同窓会員の皆様に参加されますようにご案内申し上げます。

- 期 日 2001年(平成13年)5月23日(水)
- 時 間 午後5時—受付開始
午後6時—総会
午後6時30分—懇親会
- 議 題 1. 会務報告の件
2. 予算決算の件
3. 役員改選の件
4. その他
- 場 所 目白 椿山荘
東京都文京区関口2-10-8 (TEL 03-3943-1101)
JR目白駅、地下鉄有楽町線江戸川橋駅下車
- 会 費 懇親会費 8,000円(学生・年度会費含む 3,000円)
2000年度東京桑野会会費 2,000円

東京桑野会は会員皆様の年度会費によって運営されていますので、総会当日ご出席出来ない会員の皆様には、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もございますので、出欠の返事は同封の葉書で5月10日迄にご返送下さいますようお願い申し上げます。

◇また、連絡もれもあるかと思われますので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、2000年5月22日に開催され、200名近い参加者があり盛況でした。

母校便り

★いよいよ共学化

平成13年度からいよいよ共学校となる。制服は制定しない方向で検討している。「校名、校章、校歌、校訓」は変わらない。安積女子高等学校は“安積黎明高等学校”に校名が変わる。

これにともない、トイレ、部室、更衣室等の整備が進められている。

★県立推薦入試出願が締め切られる

男女の比率がどの程度になるか、関心が持たれるところであるが、推薦入試の出願が締め切られた。推薦入試は定員の10%(40名)で安積の場合、競争率は3.4倍(昨年2.28倍)で女子の占める割合は40%だった。ちなみに、安積黎明の場合、競争率は2.25倍で、男子の占める割合は15%であった。さて、一般入試ではどうなるか。会報がお手元に届く頃には判明している。

★新入生に対する最大の行事である“対面式”と“応援歌練習”は存続。

★インター杯県予選の結果、陸上部、弓道部のインターハイ出場が決まった。栗林君は800mで東北大会を制した。

★囲碁同好会は、第24回全国囲碁選手権福島大会を制し、2連覇を達成した。

★本校にもIT化の波

数学教室を改造して造られた情報室にパソコン41台が設置された。平成15年度から「情報」という必須科目が新たに導入されることに伴うもの。

人が、季節が、集います。

味

お食事

伝統の味に季節の彩りそえて

- 料亭・錦水
- 松阪牛和風料理・離れ家
- レストラン・カメラア

宴

ご宴会

華やかな集いに17の大小宴会場

- 2,500名様までのパーティ、国際会議、ファッションショーなどのお集まりに。
- 最新機能の音響装置。

寿

ご婚礼

佳き日に永遠の幸せを誓う

- 800名様までの日本料理、フランス料理、着席ご披露宴。
- 庭園での記念撮影も随時お撮りいただけます。
- チャペルでのご挙式も承ります。



CHINZAN-SO
椿山荘
03-3943-1101

会員動向

☆坪井栄孝氏（58期、日本医師会会長）は、2000年10月に世界医師会会長に就任されました。世界を舞台にますますのご活躍を祈ります。上記の朝日新聞「ひと」をご参照下さい。

☆糠沢和夫氏（68期）はハンガリー大使の大任を果たされて、この度帰国されました。任地ブダペストでのヴィヴィッドなご活躍ぶりを寄稿していただきました。

☆宗像紀夫氏（73期、法務省最高検刑事部長兼最高検総務部長）は、2000年12月19日付で最高検刑事部長に就任されました。ますますのご活躍を祈ります。

☆椎野靖啓氏（78期、東京消防庁消防監）は、2000年12月1日付で、赤坂消防署長に就任されました。東宮御所や迎賓館・アメリカ大使館などの首都の中核部も同署の所轄です。

★椎野喜勇先生（元母校教諭）は、昨年3月3日逝去されました。先生は昭和20年から昭和43年までの長きにわたり、母校で教鞭をとられました。母校旧本館百年を迎えた1989年に東京桑野会の座談会『竣工百年思い出の日本館を語る』には特に参加を頂き、私たちの知らない秘話をご披露されました。椎野靖啓氏は先生の御子息です。

山口勇氏（69期）には、先生を偲ぶ文を寄稿して頂きました。

★本田安次氏（36期、文化功労者・早稲田大学名誉教授）は2001年2月19日逝去されました。昨年3月、94歳の誕生日にはライブワーク「日本の伝統芸能」全20巻を完結されました。上記の朝日新聞「惜別」に紹介されています。

世界医師会会長に就任した

坪井栄孝さん



英国エディンバラで六日開かれた世界医師会の総会式典で、第五十二代会長に就任した。日本人としては、一九七五年の武見太郎氏以来、二人目だ。任期は一年。今回の総会は、ヒトゲノム（人の遺伝情報全体）研究の進展に合わせ、医の倫理をうたった「ヘルシンキ宣言」を修正するところが最大のテーマだった。

人類は二十世紀、原子が持つ力の解放に成功したが、殺会が加盟し、医師数は百万人

ともいわれる。自民党に対する圧力団体でもある日本医師会を会長として率いて五年目。衆院に小選挙区が導入され、ますます発言力を強めている。専門はがんの治療・研究。国立がんセンター病院に十年ほど勤め、故郷の福島県郡山市で七〇年に開業した。その翌年、診療報酬引き上げをめぐる、約七万三千人の医師を巻き込んだ「保険医総辞退」

に直面した。「プロとして自由を確保しながら仕事をするには一人ではためだ」と、医師会活動に飛び込んだ。九七年にシンクタンクの日医総研をつくり、独自に医療保険制度の改革案を提言した。「医師会が改革を遅らせている」と風当たりは強いが、「対策を出してくれはいじやないか」と意に介さない。

患者は自分の医療記録に記された情報の提供を受ける権利をもつ。一九九五年、患者の権利に関するリスボン宣言が改定され、この明記されたとき、日本医師会は棄権した。医療事故が相次ぎ、医療不信が深まるなか、世界に向け、患者の権利擁護に対する日本の姿勢も問われる。

「前会長はチェコ、その前は米国。今度はアジアの声を中心に運営したい」。71歳。

写真 渡辺 剛士



民俗芸能研究家 本田 安次さん

2月19日死去(老衰)94歳 2月24日告別式

正月、東京・中野の自宅に集まった親類を前に「今年はずますががんばろう」と訓示した。「一人前だとまだ元氣になれる」と、長男の恭一さん(66)は驚いた。一月末から食が細くなり、最後の四日間は水も拒んだ。遺るような死だった。

生涯、日本の伝統芸能に宿る心と美を追い求めた。福島県に生まれ、早大では英文学を専攻。耽美的な詩人日夏耿之介を師と仰ぐ一方、秩父神社の神楽、沖繩・八重山諸島の芸能など民俗芸能のとりこになった。卒業後、宮城県石巻市で旧制中学の英語教師に、教員だった千原公さん(66)は「真剣さを学びました」と振り返る。このころ始めたのが、長い研究活動の原点となる山伏神楽、音楽の調査だった。

日本の心と美 追い求め

「日本の伝統芸能」刊行後も、「芸能隨想をまとめた」と話していた。昨年4月、東京都中野区の自宅で、芳賀日出男氏撮影

昨年までに「日本の伝統芸能」全二十巻を刊行。その後も原稿を断り返しては、「美しくなってきた」と伝統芸能の将来を案じた。「平泉毛越寺の『延年の舞』を調べ直したい」とも、もろもろ話していたという。

随筆「傳説芸能に想ふ」で、英詩人キーツの言葉を引き「世紀は永久の喜びである。二十世紀には、この喜びをみんなであらまらせてゆきたい」と語った。それが遺言でもあったのだらう。(学芸部・米原 範彦)

(上) 朝日新聞平成12年10月9日 「ひと」欄より
(右) 朝日新聞「惜別」欄より

中山義秀文学碑の 建立を

安積桑野会会長
今泉 正顕 (56期)



東京桑野会の皆様、お元気で過ごしていることと思います。

昨年、東京桑野会には、病氣療養中の

ため参上できず失礼いたしました。

今年はぜひ出席して皆様のお元気な顔を拝見し、歓談のひとつを過ごさせていただきたいと念じております。

さて、ここ2年、本校の男女共学問題につきまして、画一化に反対し、再考を促す運動を進めて参りましたが、結果は、今年の総会、及び桑野会報でご報告申し上げました通り、私どもの提案は受け入れられませんでした。

東京桑野会をはじめ、各地桑野会からもご支援をいただきながら、その実現を期すことができず、大変申し訳ないと思います。

ある程度予期はしておりましたが、自由選択の余地を残さず、全県画一化をはかった県教育委員会の判断が正しかったかどうかは、歴史の審判を待つしかありません。

言うことだけは言う。しかし、決まってしまったことには協力する。このフェアプレイの精神は安積の伝統でもあります。

安積の場合は安女と違い(安女は校名が安積黎明と変更)、校名、校章、校歌、応援歌、すべて従前通りです。

この4月から女子生徒が入ってきます。男子学生もいい意味の刺激を受けて、共学化の新しい伝統が築かれるこ

とを期待しているところです。

さて、もう一つの話につきまして、お知らせとお願いを申し上げたいと思います。

それは安積卒業の二人の著名な作家についてです。一人は久米正雄、もう一人は中山義秀です。

久米正雄の鎌倉の自宅がご遺族から市に寄附され、それを機会に市は郡山文学館をつくりました。高山樗牛、久米正雄、中山義秀、鈴木善太郎、東野辺薫の先輩文士が紹介されております。ぜひ郡山にお帰りの節は、文学館に足を運んでご覧ください。

中山義秀は、今年生誕百年を迎えます。昨年10月には、生誕の地西白河郡大信村では、中山義秀文学館を中心に、盛大な「生誕百年祭」が催されました。水害で2年間中断していた「中山義秀文学賞」も、安積桑野会有志のご協力もあって復活いたしました。

義秀が小学校を過ごした二本松市では、ゆかりの作家ということで、これも二本松桑野会の主唱で、立派な中山義秀文学碑が建立されました。

ところが、安積で5年間学び、両親は二本松から郡山の小原田に移住してきたにもかかわらず、肝心の郡山市には義秀の文学碑がありません。

生誕百年の機会に、郡山市に文学碑を建てようという声が強くなってきました。

私も賛成です。いずれ具体化いたしましたら、その節は東京桑野会の皆様にも格別のご協力を賜りたいと存じます。

以上近況報告を兼ねてご挨拶まで。

(福島中央テレビ最高顧問)

遺伝子

安積高等学校長
梅田 秀男 (73期)

「中山義秀生誕百年祭」記念講演が10月21日、大信村で催された。講師は直木賞作家安西篤子氏である。安西氏は講演の中で、『故郷はそれぞれに故郷の遺伝子を持っている』という話をしたそうである。私は、残念ながら氏の講演を聴くことはできなかったが後日新聞で知った。安西氏は本県生まれではないが、父君が三春町の生まれで須賀川市で育ち安積中に学んだ。その父の故郷の遺伝子が安西氏に組み込まれ、たまたま出会った義秀の作品に理屈抜きものを感じ、義秀に師事することになったということである。

私は充分ありうることだと得心がいて新聞を読んだ。自分が生まれ育った所はもとより、親や祖父母の故郷であっても、幼時に、折に触れて話を聞き、また親に連れられて実際何度か足を運び、風景を目にし肌で呼吸する。これが遺伝子ということになるのであると私は思う。

故郷と同様、学校も亦それぞれに遺伝子を持っている。私は仕事柄多くの人との出会いがある。私が本校の教員であり、また卒業生だとわかると、同窓の方は、「実は私も安積第〇期生です」ということになり、話に花が咲く。有り難いことである。更に有り難いことは女性の方である。「うちの主人が安積の同窓生です」とか、「私の父が」「兄が」「従兄弟が」という方が沢山いて、中には肉親の本校卒業期や担任の名前まで覚えている方もいる。これはもう単なる関わりというものではなく、安西氏のいう遺伝子である。それを裏付けるように、その女性の口から、当

小型鋼船建造並に修理

廃水処理設備、環境衛生設備



京浜ドック株式会社

取締役社長 大内博文 (71期)

〒221-0022 横浜市神奈川区守屋町1-2-2 電話 (045) 461-6834 (代表)

時の安積はああであったこうであった、このような名物先生がいた等実に詳しい話が出る。初老を迎えたご婦人で本校の校歌をそらんでいた方もいた。それはもう兄や従兄弟の話ではなく、自分自身の青春の原風景であろう。

本校は卒業生はもとより、このような遺伝子を持った多くの方々に支えられて新世紀を迎えた。素晴らしい安積の遺伝子を安易に組み替えることなく、真のバイオニアスピリットを組み込んだ青年の育成に当たっていききたいと意を新たにしているものである。

「吹雪いてもふぶいても安達太良が好き」

「新酒酌み 安達太良百を志す」

七月のある日、千葉県庁の方から一通の手紙が届けられた。本校第76期卒業生・佐藤健氏の訃報であった。佐藤氏は東京大学大学院都市工学科修士課程を修了し千葉県庁に勤務していたが奥穂高縦走中に滑落し55歳の生涯を閉じたという。氏は文武万般に互って並はずれた才能を持ち、千葉県庁では無くてはならない人材として活躍し、傍ら、山を愛し、俳人としても将来を囑望されていた。その氏が生前に掲げていた夢の一つが、生涯に100回故郷安達太良山の山頂に立つことだった。それが365回で終わってしまった。そこで氏とゆかりのある人たちで、氏の写真等を持参し、残りの35回を叶え夢を達成させてやろうという案内であった。

理屈抜きに感銘を受けた。私は残念ながらまだ足を運べないでいるが、その後の報によると、秋には80回を越したそうである。故郷の遺伝子は脈脈と受け継がれていく。

雑感

古川 清 (63期)

朝は5時には起きています。長年の海外生活で身につけてしまった習慣である。理由は簡単、どこであれ海外では朝早い方がラジオ・ジャパン即ちNHKの海外放送が良く聴こえたからである。

40年前ロンドンに居た頃は日本の新聞は航空便でも一週間遅れでしか着かなかった。船便の雑誌などは2ヶ月位もかかった。それがこの10年位の間に劇的に変わってしまったのである。

今や欧州でもアメリカでも日本の新聞はその日のうちに手に入る。日本人の泊り客の多いホテルなどではスタンドに日本の新聞を置いてある。衛星でファクシミリを送り、現地で印刷してしまうからである。その上、衛星テレビでも日本のテレビが見られるようになった。先般海老澤NHK会長にお会いしたが、今では世界の何処でもNHKの海外向けテレビが見られるらしい。その上、IT時代に入ったのでP.C.を携帯すれば世界の何処に居ても日本のニュースにアクセス可能となった。距離と時間が驚く程短縮された。

かように便利極まりない時代になったがここに大きな落とし穴がある。余り便利になったので注意をしないと異文化体験をしないまま外国で数年を過ごすことになりかねないことになるからである。ロンドンであれニューヨークであれ朝、配達される日本の新聞を読み、衛星TVで日本のニュースを見て会社に行くときや外人の方が勉強して日本語を話すので日本語だけで仕事が進んでしまう。仕事が終れば数多くあるジャパニーズ・レストランで夕食をとり、気が向けば隣にあるカラオケ・バーで

2、3曲歌って帰宅するという具合になる。

これでは何のために外国に派遣されているのか分らなくなろう。現地の言葉と文化を学び、現地の人々と交って相互理解を深め、あわせて日本人としての情報をローカルな人々に発信しなければグローバルな時代に相応しい外国生活とは言えない。

その故に明治の大先輩朝河貫一教授には頭の下る思いがする。大志を以って単身渡米し、自分の夢を実現した朝河先輩の様に今日の安積の若き卒業生達が海外に羽ばたいて欲しいと思う。この小さい、しかも人口が多く資源もない日本は海外と手を携えずには生き残れないからである。

(宮内庁 東宮大夫)

同期会に出席して 思いつくままに

竹花 栄明 (48期)

〔その1〕わが子に同期会会場の雰囲気を見せる。ある同期会の会場の廊下のところで、若き母親がわが子(幼稚園)に父親の同期生の集い(和気あいの雰囲気)を語り見せているその教育に感激しその時の様子が思い出される。

〔その2〕同期会でわが女房を自慢する。同期会というわが女房(大蔵大臣)は会費以外に小遣いを多くくれる(普通の飲み会という制限される。門限も)。ゆつくり楽しんで来なさいと参加を喜んで送ってくれるとわが女房を自慢げに語る彼の顔に仲間は羨ましがってそれを聞いている。

〔その3〕同期会で校歌を隣室で聞く。先般、磐梯熱海温泉で私の同期会(48期、S21(1946)から第55回、出席者31名)で校歌を歌う。それを隣の室

郡山に帰省の際は、是非ご利用ください!!



「団樂の続きは温泉行って気楽にお泊り!」が合い言葉

夕食別の宿ですので、ご家族ご親戚と会食後、ゆつくりお泊りいただけます。

<お一人様1泊朝食付き・税別>

	1室2人	1室3人	1室4人
休前日	8,500円	7,500円	6,500円
平日	7,500円	6,500円	5,500円

●朝食は和食(バイキング(7時~9時)) ●タオル、歯ブラシ、バスタオル、浴衣付きです。
●布団敷きはお客自身にお願しておりますが、事前のお申し付けの場合のみお敷きしております。

簡単な夕食なら館内のレストランでOK

露天風呂、サウナ、ぬる湯、美肌の湯、貸切風呂と多彩な温泉! ゆつくり、気楽に、のんびり、ちゃほちほ温泉を楽しむ旅館です。

温泉本舗

きらくや

〒963-1309 郡山市熱海町熱海4-39(磐梯熱海駅前)
TEL.024(984)2130(代)
http://www.kirakuya-inn.co.jp

食べきれない夕食と部屋に出入りするサービスを無くしてみたらこんなに低価格で気楽な宿になりました

で、わが息子が卒業した高校のそれを久しぶり懐かしく聞いて感激したという父親と、息子さんの近況について語り合う不可思議な出会いを仲間に話し感動を覚えました。

〔その4〕同期会で盃を交わす意義について。皆さんがああ、の学舎、グラウンドで3か年間、青春時代「我とは何か」「人生とは何か」「自分は何処へ行くか」、安積の伝統「質実剛健」「友情」「開拓精神」「文武両道」「自由闊達」等また朝夕、「嫩草燃える安積野や」「天地の正気」「紫の旗ゆくところ」等声高らかに歌い、安積魂が培養され、それが体内のどこかに強く秘められ宿され、バックボーンとなって今日に至るまでの人生航路、力強く逞くましく生き抜いて来られた表情に話し方に姿勢に現われ、相互に盃を交わしながら、往時に還り、当時の顔になって、当時のエピソードなどを語り合い、また近況の情報を交換し合うことは明日の活動の源泉の糧となって生かされることでしょう。ここに同期会の意義、価値があると思います。

いよいよ21世紀を迎え、「おう世紀よ!! 生きることは愉しい。学問は榮え、精神は醒める。」フッテン(1488~1523 ドイツの人文主義者、宗教改革の道を拓く)感激なき人生は空虚なり。これらのことばを味わっているこの頃です。

皆さんの年齢に生命を加えられんことを祈念しています。

“いくそたび、かきにごしても、すみかえる、水やみくにの、姿なるらむ”
真木保臣(和泉)[1823~1864 幕末の尊王攘夷派、久留米水天宮の神官]

(元安積高校教諭)

長生きの秘訣

鵜沼 直雄 (63期)

私は仕事上、長生きをした人、長生きをしたかったのに残念ながら途中で挫折した人達を、数多くみて来ました。

長生きをし、元気に仕事もし、寝込まず、人生をエンジョイできたらそれが理想というものでしょう。

古来、不老長寿の薬を求め、悲願のようにそれを探して参りましたが、そのようなものは雲のかなたの幻のようなものであり、現実的ではありません。

長生きの秘訣は目の前にあります。それに気付くのか気付かないのか、そしてそれを実行する勇気を持つのか持たないのかだけのちがいののです。

今回は夜中に水を飲む、昼寝をする、日光に当たらない、この3点についてお話ししたいと思います。

1. 夜中に水を飲む

明方に救急車が病院に来ます。心筋梗塞や脳卒中などです。なぜ明け方なのでしょう。真夏の暑い日、ゴルフ場から救急車が必ず何回かやって来ます。心筋梗塞です。なぜ真夏で、しかもゴルフ場なのでしょう。

その答えは脱水です。つまり体の水分が欠乏し、血液が濃縮してどろどろになり、固まったためなのです。

真夏のゴルフ場の場合はお分りと思います。グダグダ汗が出る。本当は沢山水分を補給しなければならぬのに飲まない。飲んでも少ししか飲まず脱水になるというわけです。

私たちは夕食をとって寝ると朝まで飲まず食わずです。その6~7時間の間、汗もかくでしょうし、汗をかかなくても知らず知らずのうちに、かなりの水分が息や皮膚の表面から蒸発して

出ていきます。したがって明け方は脱水傾向となり、血が固まり、血管がつまり心筋梗塞になりやすいというわけです。

それを予防するためには、寝る前にコップ1杯の水を飲む。枕元に水をおき、夜中に目が覚めたら、コップ半分でもいから飲む、ということになります。

2. 昼寝をする

チャーチルは24時間働いたといわれていますが、その代り、1日5回寝たということです。愛用の枕とパジャマはいつも離さず、疲れたら15分くらい寝る、また起きて仕事をする、また寝るということをくり返したとのことです。この話にはだんだん尾ひれがついて、戦争に行くときも枕とパジャマと愛用のベッドを持っていったというのですが……。

午後、単調な授業を聞いていると、吸い込まれるように眠くなり、何もかも分からなくなってしまうけれども、ふと気が付くとまだ10分位しかたっていないという経験がおありでしょう。電車の中で、たった1駅の間だけけれどもぐっすり眠ってしまった、ということもあります。これらはミニ睡眠といって、疲労を回復し、頭をもとにもどし活性化するのに非常に役に立ちます。夜のグダグダした眠りよりははるかに有効なのです。

今、この昼寝が見直されています。時間は10分から30分以内で十分。眠らなくても頭を休ませるだけでも十分です。

3. 日光に当たらない

日光を浴びて肌を焼き、元気になろうというのは、現在では通用しません。戸外の良い空気を吸い、スポーツをするというのは良いことですが、その時は日焼け止めクリームをたっぷり塗りましょう。

理由は2つあります。1つは皮膚が

鞍手茶屋

東京で福島のけんちんともちを!!

——昼はそば、夜は酒と肴——

霞ヶ関店 〒100-6001 東京都千代田区霞ヶ関3-2-5 霞ヶ関ビル1F 電話 03-3581-7066
大手町店 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービルB1 電話 03-3213-2385
中山峠店 〒963-1304 福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠 電話 0249-84-3774

(店主) 上野富衛 (78期)

んです。オーストラリアでは幼稚園の時から帽子をかぶり、長袖を着て外に出るよう、しつけられています。日本の幼稚園でもだんだん行われるようになりました。第2は皮膚の老化です。皮膚がんは日本ではそれ程多いものではありませんが、老化は万人共通の問題でしょう。とくにある年齢以後は直射日光に当たりますと、シミやシワが残るようになります。

日光に当たらないとビタミンDが不足するのではないかと考えもありますが、そのためには手だけ15分間も当てば十分だということです。

元気で長生きが第一ですが、皮膚の健康、すなわち、見た目が元氣、若い、というのも大事なのではないのでしょうか。

(三井記念病院 常勤顧問)

「関西桑野会」のこと —都市部同窓会の活動について—

八木 健夫 (63期)

フレーフレー安積! と会の紫旗を振りかざして寒風の中を在校生と共に絶叫したのがつい昨日のこのように想い出される。

「関西桑野会」にとって平成10年の母校ラグビー部の花園全国大会出場は正にエポックメイキングとも言うべき出来事であった。それは短い期間での後援寄付金集めに始まり、応援メッセージを携えて奈良の選手宿舎への激励訪問、更にはグラウンドに於ける家族を交えた大声援等、試合の結果とは別に会員の気持が一つになって燃え上った貴重な体験となった。

地元郡山からは最も離れて「関西桑野会」は近畿2府4県に在住する180余名を会員としており、滋賀・和歌山から日本海に面する北兵庫まで地域的に

は広い範囲をカバーしている。会長の鈴木直君(77期)は桑野会の中でも最も年少の会長と思われるが、大阪大大学院基礎工学研究科教授として物性物理理論の権威であり大学や学会運営に八面六臂の活躍をしている人物(ノーベル賞を受けた白川教授とはペンシルバニア大学研究室での先輩後輩)。一方学生ら若年会員の身近な存在として心強い相談相手と言える。この鈴木会長を中心に当会の運営は各年次(50期~94期)を代表する10名の幹事が核となり春秋の幹事会をもってその方向づけを行なっている。

桑野会本部との緊密な連絡協調体制を持つことは言うまでもないが、会運営の眼目を挙げるとすれば

- 1) 地区会員の動向把握
- 2) 定例総会の円滑活潑な運営
- 3) 会報「安積野」の発行
- 4) 会でのインフォーマルなコミュニケーションづくり等

が指摘されよう。本年度は本部事務局の協力を得て新刊の「安積桑野会名簿」を活用し地区会員名簿の再整備を行なうことが出来た。結果住所不詳で返戻された郵便物は3件に止まり、今後会員名簿のメンテナンスが課題となつて来よう。会員の異動(住所変更)に関しては東西間の勤務先異動が多いものと思われぜひ「東京桑野会」ともタイアップして異動連絡の徹底化を図ってゆきたい。又京阪神の大学へは毎年20名前後の新入学があるため学校事務局より新卒会員の名簿を入手し積極的な働きかけを行なっている(学生は総会懇親会費免除扱)。

次に4号となる会報「安積野」はA4版4頁の手造りのものではあるが、会員のエッセイ、趣味の作品から最近の共学問題への提言等を掲載し、生活指針の参考に又会員相互の交流の場とし

て有効に活用されているものとする。

ところで年間のメイン行事としての総会のあり方であるが、開催日時は学生の試験等へも配慮して6月中旬を選び、会場も交通便利な大阪駅周辺で開くことにしている。毎年のことながら20~30歳代会員の出席(反応)が少ないのが悩みであり、少しでも魅力ある総会にすべく工夫改善を心がけている。例えば(a)本部から学校関係資料の送付を受け情報提供する。(b)福島県大阪事務所の協力を得て地元情報を提供する(本年は「うつくしま未来博」の紹介)。(c)出席者のプロフィール及び欠席者の近況をプリント配布する。(d)欠席の年会費納入者には名簿総会資料を送付しフォローする。が挙げられる。

新しい動きとして本年は最近充足した安積女子高同窓会関西支部との交流が具体化した。同支部の11月総会(終了後の茶話会)に「関西桑野会」より会長と幹事2名が招待され相互の友好を深めることが出来た。母校の男女共学化が決まったいま、将来女性会員を迎える我々にとってもこの交流は大いにプラスとなることと思われる。今や中高年に望ましい生活のパターンとして「多くの人と関係を保ちながら」「何か役に立てることをする」ことが期待されており、幸い学縁というつながりを大いに生かし若い層とも一緒になって新しいコミュニティづくりが出来るとすればこの同窓会の活動も別の意義をもって見直されるものと言えよう。

(関西桑野会常任幹事)



公認会計士 星 武典 事務所

ムアーズ・ローランド国際会計事務所所属

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-6 共同ビル(錦町三丁目)6階

TEL(03)3291-8361 FAX(03)-3291-8465

E-mail Address:cpahoshi@mxl.alpha-web.ne.jp

星 武典(58期)

柔道の恩師 濱崎五郎先生

山本 佳 (58期)

私達58期生は昭和16年入学、同年12月大東亜戦争勃発、同20年卒業そして終戦とすべては戦時体制下にあった。最終の学年は一億総動員の国の方針で、学年を2つに分け横浜の鶴見・戸塚の軍需工場に夫々学徒動員として働いた。

勿論卒業式もない、卒業アルバムもない。卒業後散り散りに別れたが、逆境の中に身を置き一つ釜の飯を喰った友情の絆は強い。

厳しい時代背景だったが、屈託のない少年達の安中入学当時は、私の場合初めての汽車通、郡山駅から約4キロの道程の季節感、新しい友との出会い、初めて教わる教科の先生方の授業……と新鮮な初体験に胸をときめかして校門をくぐった。

当時の先生方は授業の進め方や生徒への接し方、風貌も個性的で、上級生から聞く綽名も一度訊いたら忘れられないほどピッタリで、インパクトのあるものばかりだった。無礼講のお許しを戴いて列挙する。

カイゼル髭のカイちゃん(佐藤先生)、物理のとっくりさん(鳥影先生)、英語の坊ちゃん(奥山先生)、生物を教え校歌斉唱のピアノを弾くヤッペさん(武智先生)、体操のジョッキさん(吉田先生)、地理のペチョウさん(松田先生)……そして柔道のガニさん。

濱崎五郎先生は真四角な体型と古武士の風格、ガニ股で摺り足に真横に歩いている印象があった。

当時は柔道と剣道が正科に組み入れられていて入学時からいづれかを選択した。私は日和田小学校で相撲が強かったので迷うことなく柔道を選んだ。

校舎西側の渡り廊下を歩いて更衣室で柔道着に着換え、松林を背景にして120畳ほどの柔道場に入ると身がひきしまる思いがした。

濱崎先生から自然体、自護体、組手のこと、前方廻転、側方、後方の受身の型、崩れ上四方固めや横四方固めなどの寝技の型、関節技などの基礎動作をしっかりと指導された。

柔軟体操をかね受身を反復練習のあと乱取りに入った。道場をノッシノッ



シと歩き、鋭いが慈悲深い目で少年達の稽古を見守って下さった。稽古が終ると汗と油にまみれた道場の畳を全員で雑巾がけで毎回清掃した。

「礼に始まり礼に終る」武道を通して知らず知らずのうちに少年の心と体の中に芯が通るような感じがした。

私達同級生の中に須賀川出身の樋口正三君がいた。彼は柔道教師樋口朝之助先生の3男で柔道の申し子のように技も多彩だった。富塚弘、渡辺清八郎の両君も須賀川勢で力があつた。堀田志良君、磐越西線の藤田利雄君も元気が良かった。2年生の時、福島県中学校1・2年の部の県大会で同級生の柔道部員が出場し、準優勝した記録がある。

入学した当時の柔道部では、5年生(54期)に鈴木重幸さん、山口哲雄さん、55期には甲高い気合を入れる野替正人さん、本宮のガニ股の日向国光さん、56期の伊藤信一さん、矢吹隆彦さん、57期に大野昭二さん、笠井恒さん等の稽古や試合ぶりが印象に残っている。

お目にかかる機会を逸したが名選手角田良平さん(51期)が日大に進学し全日本学生選手権決勝戦で拓大の平野時男選手と覇を競った。若くして世を去ったが大変な美男子で、大女優の山根寿子さんが病床を見舞ったという話を聞いたことがある。

～桜花散る柔道の庭は若き命の捨て

どころ～

スクラムを組んで応援歌を唄うと青春の胸が高鳴った。

濱崎五郎先生は生徒に対して、細かいことは一切おっしゃらず、正々堂々を旨に伸び伸びと稽古をさせて下さった。生徒たちの心と体に質實剛健・文武両道の気風が自然に芽生えていった。

濱崎五郎先生と御家族の貴重な写真及び資料を御息子の次郎様、洋光様より提供して戴いたので御紹介する。

濱崎五郎先生は明治30年東京生れ、本籍は鹿児島県の武家の出である。中卒後、鹿児島県歩兵聯隊に入隊、見習士官勤務を経て陸軍歩兵少尉、大正12年明治大学商学部卒業、大正15年より県立安積中学校教諭として着任、昭和31年3月まで在籍された。

私達在校時は濱崎先生は40歳半ばの男盛りだった訳である。痛恨事としては、御家族の写真撮影の翌年、長男一郎様が戦死されている。濱崎先生の胸中を察するに余りある。

先生の明大柔道部時代は、明大及び講道館で修業し、「花の講道館」の写真が私の手元にある。

大正8年10月26日講道館秋季紅白試合の夜、撮影したもので、嘉納治五郎先生を中心に永岡秀一、三船久蔵、徳三宝各先生方の姿が、綺羅星の如く並んでいる。濱崎先生は講道館柔道創始者嘉納治五郎先生より直々の薫陶を受けその師を尊敬すると共にそれを誇りとし、師の教え「精力善用、自他共栄」を座右の銘としていた。

私の自己紹介と柔道体験及び先生の晩年について記す。

私は終戦後、日本歯科医専(現日本歯科大学)に進学した。食糧難、下宿難の時代だったが、志を立て講道館の門をたたいた。醍醐敏郎、大澤慶巳両先生はじめ一流選手の胸を借りてほとんど毎日汗を流した。三段当時、講道館の紅白試合で、昭和28年の全日本学生選手権保持者明大主将末木茂選手を大外刈の返し技で勝った。猛稽古の賜物で濱崎先生の「力必達」の言葉をかみしめた。

昭和25年郡山市日東病院に勤務してから濱崎先生に再びお目にかかれた時は嬉しかった。

その頃、先生は福島県柔道連盟の重鎮であり福島県南柔道連盟の会長で

あった。また日東病院副院長矢吹正吾先生（43期）のスポーツに対するご理解も有難かった。その大きな翼の下で私は新潟・宮城・山形各県との対県試合、福島県大会の常連として出場、4段に昇段した。

昭和27年、県南柔連の宴席が郡山の料亭辰柳で開かれた。

私がお酌にあがると先生は旨そうに盃を干され数献やりとりを重ねた。中座しようと腰を浮かすと「山本君、捨子はいかん。戴いた盃はきれいにして席を立ちなさい」と、又、盃を戴いた。先生は上機嫌で床柱を背に情趣豊かに山中節を唄われた。

昭和31年頃、先生は病床にあつて、口腔内が爛れ易く日東病院歯科に往診を依頼された。

安積の校門近くのご自宅に数回お伺いしたが、西郷南洲書の「敬天愛人」の掲額のある日本間で、優しい奥様の看護のもとで笑顔で迎えてくださるお姿に心が洗われるようだった。

昭和32年2月28日、太田病院分室で内臓疾患のため逝去された。享年60歳。

御自宅に安置された御遺体の上に、神葬祭によって日本刀が添えられてあり、いかにも薩摩隼人の最期にふさわしかった。

御夫人あや江様は93歳の天寿を全うされた。

なお「濱崎五郎命」の墓は安高近くの大有寺北側の墓地にある。

～おわりに～

昭和36年頃、私は長野県美ヶ原に旅行した。松本市内の大きな土産物店で買物を物色していたら濱崎先生の奥様にばったりお逢いしお互いに手を取り合わさんばかりだった。御実家であることをお聞きしたが、人と人のご縁、目に見えない糸の摩訶不思議さに驚いた。

私も古稀を過ぎたが朝日新聞や日本テレビ「所さんの目がテン」で紹介されたように、毎朝上野の森で太極拳・ラジオ体操が続けられる幸せを思う。心・技・体を育てて下さった校恩、師恩、柔道の恵みを忘れることはない。



一郎 18歳 (53期)
航士在校

次郎 15歳 (56期)
仙幼2年生

洋光 8歳 (66期)
郡山市立開成国民学校2年生

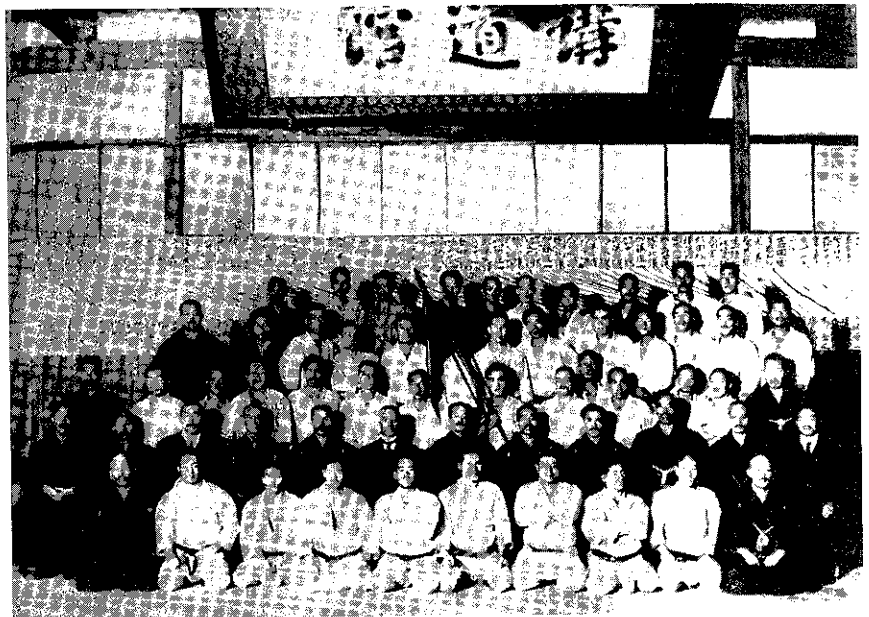
母 ヒロ 73歳

濱崎五郎 46歳

あや江 41歳

力必達

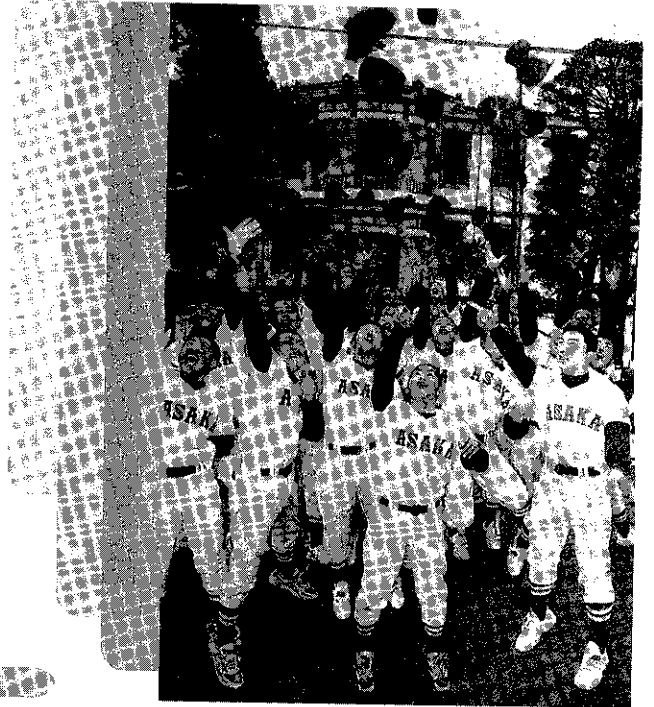
柔道選手 濱崎五郎



一同に会した「花の講道館」の面々 明治・大正を彩った強者たちの夜
(4列目左から4人目 濱崎五郎二段)

創部111年

甲子園初出場!



甲子園に紫の旗 —安積が甲子園に—

国分 守 (78期)

今年の春の選抜甲子園に「21世紀
枠」なるものが出来て、母校安積が全
国9校の推薦の中にあつて、選抜され
るかもしれないと知ったのは1月中旬。
ちょうどそのころ、78期の首都圏在住
OB達は1月31日に大手町の上野君の店
「鞍手茶屋」で会合を予定していた。幹
事の宗像君に返信メールを打つ。「安積
が選抜の21世紀枠にエントリーされて
いるのを知っているか。31日はお祝い
会になるか、残念会になるか。選ばれ
ることを祈ろう。」新聞によると、他の
8校の推薦理由はさほど強くない。運命
の31日、私は仕事で遅れて会合に参加
の予定。そして夕方の4時少し前、私
は自社のオンラインニュースで安積の
甲子園出場が決まったことを知った。
頭の中が真っ白。まず、幹事の宗像君
にメール。彼はすでに知っていた。忙
しい仕事を済ませ午後9時過ぎにやっ
と「鞍手茶屋」へ。みんな待っていた。
私だけが野球部OB。だれもが嬉しそう
だった。改めて乾杯。私は完全に興奮
していて、次々に野球部時代のことを
話した。「みんなで甲子園に行こう。応

援に行こう」校歌、応援歌、凱歌を次
々に歌った。胸が詰まった。

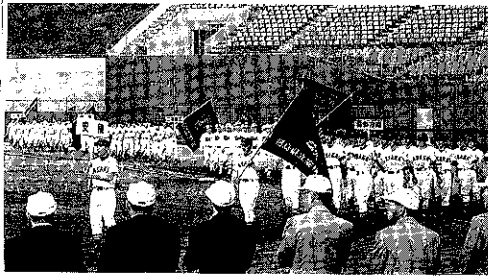
「野球部OBのころ」

38年前、私は安積高校に入学すると、
迷わず野球部に入った。出身の安積中
は強かった。県中大会の決勝でも16-0
の5回コールド勝ち。県大会もベスト
4進出。そのナインの中から4名が安
積に入学。そろって野球部に入った。
入学前から安積がもう少しで甲子園と
いうことは知っていた。大学進学のこと
など小さなことだった。安積を甲子
園に。先輩たちはみなすごかった。3
年には川原田さん、佐藤さん、山口さ
ん、近藤さん。2年には渋谷さん、岩
谷さん、小倉さんなどなどそうそうた
るメンバー。これでも甲子園にはあと
一歩及ばなかった。「汗は汗、涙は涙、
負けは負け」高校野球ほど、負けたチ
ームに非情なスポーツはない。安積の
野球部OBはだれもが自分の手で甲子園
にとまでは思はなくても、ナインのひ
とりとしてベストを尽くすつもりで練
習に励んだ。そして、だれもが今一歩
及ばず、期待に応えられなかったホロ
苦い思いを引きずっている。

あれから30数年。入部の時、吉田治
郎監督から「野球をやれば、やらなかつた
ひとよりはるかに色々なことを

安積センバツ切符

「21世紀枠」で出場決定



（左写真）21世紀枠で出場決定した安積インナーナイン選手。右写真が安積高校のOBたち。いづれもグリーンスタジアム

創部11年 悲願の甲子園

安積高等学校野球部（以下、安積）は、2001年（平成13年）の甲子園大会に出場することになった。創部11年、悲願の甲子園出場を果たした。この快挙は、安積の野球部員、関係者、そして応援した人々の努力のたまものである。

安積は、2000年（平成12年）の夏の甲子園大会に出場した。この大会で、安積は初戦から苦戦を強いられた。しかし、選手たちは諦めず、最後まで戦った。その姿が、多くの人々の心を打动了。

安積の野球部は、1990年に創部された。創部当初は、部員も少なく、練習場もなかった。しかし、選手たちは夢を追い求め、努力を重ねてきた。その結果、2001年の甲子園大会に出場することになった。

安積の野球部員は、毎日練習を怠らないうえ、試合でも最後まで戦った。その姿が、多くの人々の心を打动了。安積の野球部は、創部11年、悲願の甲子園出場を果たした。

今春から共学化 男子校有終の美

安積高等学校は、今年度から共学化する。男子校有終の美を閉じ、男女共学の学校になる。これは、安積の歴史の中で重要な転機である。

安積は、1990年に創部された。創部当初は、男子校であった。しかし、時代は変わり、共学化が進んでいる。安積も例外ではなく、今年度から共学化する。

共学化により、男子校有終の美を閉じ、男女共学の学校になる。これは、安積の歴史の中で重要な転機である。安積の野球部は、創部11年、悲願の甲子園出場を果たした。

安積、初の甲子園



「21世紀枠」で

福島民報

号外

学べる」と言われたことが解るようになった。会社でも、与えられたメンバーでどうチームを作るか。なぜ犠牲パントが大切なのか。野球は実に複雑な要素を含み、いま振り返っても学ぶ事が多い。現代の企業の多くは能力主義を取り入れているが、うまくいっているところはほとんどない。チームワークがあつての個人や、パントのような隠れたいい仕事を上司はまるで分からないからだ。こころの中にくすぶっていた何かが一挙に吹き飛ぶようなニュースから間もなくの2月4日（日）、私は相模原市の吉田先生のお宅を訪ねた。先生も無論お喜びでビールで乾杯し、甲子園のこと、高校時代のこと、諸先輩のことなど話しがはずんだ。先生は「みんなと飲みたいな」とおっしゃった。吉田先生こそは安積野球を最も知っているお方だ。

「111年目の快挙」

仕事柄、企業各社の業績を毎日目に行っている。長引く不況で、結果も次期予想もほんの一部を除き良くない。中小はなおさらである。それに政治の無策失策が重なって、日本は完全な閉塞状態。リストラや能力主義でサラリーマンはへとへと。失業者が多く、学校を出ても就職できない若者も多い。安

積のOBも例外ではなかろう。私も50代の半ばになって、毎日神経を擦り減らして仕事をしている。そうした中のこの甲子園出場の快挙。国中はおろか世界にまで行っている安積のOBはどのように聞いたであろうか。「えっ」という驚きと共に想いが広がる。あの鹿鳴館様式の本校舎、やさしかった先生方（みんなあだ名がついていた）の顔。一気に青春の時代に時を移すような爽快さを覚える。OB諸君！ 安積の試合の前日は仕事を終えたら新幹線に乗ろう。何があっても甲子園。すでに全国から「応援にゆく」というメッセージがホームページに溢れている。そして、次の日に眼にするのは、アルプススタンドにはためくまぎれもない紫の旗と、郡山から駆けつけた黒山のような仲間たち。懐かしい顔と顔。歌おう、校歌、応援歌、凱歌。

（株）QUICK総合研究所勤務

甲子園出場と緊急家族会議

小川 幸祐（68期）

前略にての御無礼、ご容赦願います。何はともあれ、兎にも角にもお目出度うございました。

マッテマシタア！ 待ちましたヨ！ 学び舎出て40有余年。今年こそ、今年こそはと期待して、地区予選の結果に『一喜一憂』の日々を過ごしたのが思い起こされます。いつの日か、いつの日かと、結果を知る度に『喜』の字は去り行き『憂』の歳月を重ねるようになり、耐えることが身に浸みて、悟りの心にも似たものが芽生えるようになって参りました。否や！ 成らぬ、此の俣ではナラヌ！ と唯タダ、祈る！

『夢』と『儚い』との字の間に、どれ程の隔たりがあるのだと、アー『にんべん』よ、去って下されと、遠い安達太良山の空を仰ぎ惚んだのが、懐かしくおもわれます。

何故に、先代の敵討ちのように、それ程までに頑なに拘るのと、セセラ笑う方も居られるでしょうが、ならば一言、事ここに到る経緯を謹んでご報告申し上げます。

小生、在学中の昭和20年後半、あの豪腕野田投手を擁し、県大会敵無しの優勝に輝き、それこそ甲子園目前の口々ではありました。信夫ヶ丘、白河球場へと蒸気機関車鈍行で応援にいきました。俄か造りの木造スタンドは、所々抜け落ちていて、白い鼻緒の高下駄で危ない思いも致しました。食料事情

亡き弟の夢、これが甲子園



二十五日に開幕した第七十三回選抜高校野球大会（日本高野連、毎日新聞社主催）の第3試合に今大会巨匠の「21世紀枠」で選ばれた安積（福島県郡山市）が登場した。創立百十七年に於いて初の甲子園。ナイターで金沢（石川県）と対戦し、1-5で敗れたが、五千人を超す応援団がアルプススタンドを埋めつくし、地鳴りのような大声援を送り続けた。その中の一入、郡山市在住の竹花栄明さん

福島・安積高 83歳OBも応援

「おい、見ているか。後輩たちが甲子園で試合をしているぞ」。竹花さんは心の中で、弟の植三さんに語りかけた。自らは同高の前身、安積中学の一九三六年卒。母校で世界史教師として定年まで三十二年間、教壇に立った。三つ下の植三さんは安積野球部で左腕エースとして甲子園を夢見つつも果たせず、卒業後に出征、戦死した。二十四歳だった。

二十四日夜に約六十台のツアーバスで郡山市を出発した。アルプススタンドで竹花さんは「感無量。弟もここに来たかったら」と言っていた。夢を果たしたことに満足そうだった。



たな世紀を迎え2001年より私なりに何かしらの夢をかけたが、日々努力していこうと思っております。

私自身のもうひとつの夢としては、我が安積高校野球部の「甲子園出場」でした。安積の「紫」の旗が甲子園のアルプススタンドにかかげられる日の来ることを楽しみにしておりました。それが、この春現実のものとなり、私の喜び、これに増すものはありません。

そして、私には、12歳年の離れた弟がおりまして、2001年4月より安積高校に入学できるように日々精進しております。当然、野球部に入って、甲子園を目指し、兄貴を越えるぞと口ぐせのように言っております。

(オオクラヤ住宅(株))

ああ野球部

菊地 渉 (105期)

早いもので、私が安積を卒業して9年が経とうとしている。卒業後の9年間は大学進学・就職・結婚と人生の転機となる出来事が色々あったが、やはり安積での3年間の思い出は色あせることが無い。

私は当時野球部に所属し、悲願の甲

子園出場を目指して日々練習に励んでいた。とは言っても、安積と甲子園は無縁のものと感じているOBも少なく無いと思う。何しろ創立1世紀を超える歴史を持つ母校だが甲子園出場は一度も無い。しかし私を含め安積野球部OBの間では地元組はもちろん、地元を離れた私達も夏の予選の時期には「今年こそ甲子園出場」と新聞で予選結果を確認する目に力が入ってしまう。現役選手には毎年勝手なプレッシャーをかけて申し訳ないが、本当に楽しみなのである。私が現役の際から、「甲子園出場となれば、安積OBからの寄附によって専用グラウンドができるぞ!」などと諸先輩方に檄を飛ばされたものである。当時は「いくら何でも……」と聞き流していたが、社会人5年目の今では各分野での諸先輩方の活躍ぶりを耳にする機会も多く、何か絵空事でもなさそうな気さえしている。

私は105期生であるから、高校野球生活最後の選手権大会は平成3年7月であった。シード校をサヨナラ勝ちで下しベスト8まで進出したが、宿敵の学法石川高校に敗れ最後の夏は終わった。甲子園出場という同じ夢をみていた同期13人も、それぞれの道を歩み始めた。医師・教師・新聞記者・医学療法士などなど、実にバラエティーに富んでい

る。最近では仕事の関係もあり、全員が揃うことは難しいが、かけがえのない仲間であることに変わりはない。

(株式会社ジャックス)

「土屋さん、甲子園ですよ!」

水口 禎 (67期)

土屋さん、お待ちどうさま。バスは「甲子園」に着きましたよ! 起きて下さい、目を覚まして下さい。

他の誰よりも、貴方が母校の出場を待ち望んでおられたところですよ。ほら巨大な銀傘が見えるでしょう、中は広いアルプススタンドですよ。

開成山球場でもありません、信夫丘球場でもありませんよ。まして、宮城野球場でも、山形球場でもありませんよ。

母校が過去何回か、「ここ」へ近づいたことはありましたが、その夢を果たせなかった苦しい時にも、貴方はその実現のために本当に献身的なバックアップをされました。

母校チームの首都圏の遠征の時には、常務理事をされていた東洋大学の付属高校の施設をご提供されるなど、大変な便宜を図って頂きました。ご多忙の

安積が優秀賞

新たな歴史つくる

試合後、退出時には応援団の生徒らが呼び掛け、前

相手の健闘にも敬意を表し「フレージャー金沢」の

の応援団はバス五十八台な

センバツ応援団表彰

センバツ高校野球に出場 毎日民報専売店会青年部
した安積高のフレージャー協会と毎日民報専売店会主
タンドの応援光景を収め 催。安積は「21世紀杯」で
た写真展が 12日から安積高写真展
十二日から十 初出場、三月二十五日に金
九日まで郡山市のザ・モ 沢と対戦、大健闘したが、
ル郡山二階特設会場で開 1-15で敗れた。
かれ、熱闘と感動を再現す 写真展には福島民報社、

- (p10) 毎日新聞 2月1日
- (p11) 福島民友 1月31日号外
- (p11) 福島民報 1月31日号外
- (p12) 左・毎日新聞 3月1日
右・毎日新聞 3月26日
- (p13) 左・朝日新聞 3月26日
右・毎日・朝日 3月26日
- (p14) 福島民報 4月5日

の試合から残っていたごみ
もすべて持ち帰った。
梅田秀男校長は「スタン
ドには生徒と同窓生に加え
女性を含む一般の人もたく
さんいた。一体になった応
援が評価され喜ばしい限
り」と語った。甲子園出場
後援会の今泉正顕会長は
「男子校最後の年に男子校
らしい毅然(きぜん)とし
た応援ができ、百十七年の
歴史の重みが認められ本当
にうれしい」と喜びをかみ
しめていた。

このうち、青年部会が撮
影したスタンドの応援光景
の写真は希望者に無料でフ
レージャーザ・モ
ン山 展示する。
て約三百枚を

なか、試合には必ず土屋さんが応援さ
れる姿がありました。どれほど、後輩
にとって心強かったことでしょう。

やっと夢が叶った「甲子園」です。
3月1日に選抜出場が報じられるや、
貴方に替わって、秀子夫人から、いの
一番、桑野会事務局に「お祝い」の電
話を頂きました。一心同体での「甲子
園」への思い入れに感謝と感激です。
有り難うございました。

土屋さん、貴方が待ちに待ったところ
ですよ！ 2年前に速いところに行
ってしまわれましたが、しばらく目を
覚まして、後輩の雄姿を見てやって下
さい。校歌を、「紫の旗のゆくところ」
を、そして「天地の正気」を心行くま
で歌って下さい。

厳しかった時代に土屋さんが造って、
守り続けてこられた「東京桑野会」の
紫旗を思う存分に振って。
(東京桑野会副会長)

2000年3月25日の感激

吉井 憲一 (78期)

私が甲子園球場に着いたのは3時す
ぎ。雨はほぼ上がっていた。アルプス

席入場口に向かうと、既にOBたちで長
蛇の列。球場職員が声を枯らして交通
整理をしている。聞けば一塁側アルプ
ススタンドの入場券は売り切れ、多数
の人達が内野席での観戦を余儀なくさ
れたという。改めて入場券を手配して
くれた椎野靖啓君に感謝。また、売店
の安高グッズもめばしい物は売り切れ
てしまったという。試合前から大フィ
ーバーなのだ。前の試合が乱打戦で長
引き、長時間(結果的には試合時間よ
り長かった)待たされることになった
が、これがまた貴重な時間であった。
卒業して以来初めて顔を合わせる同期
生、先輩、後輩。そして顔も名前も知
らないけれど同窓生のよしみ、年齢差
を越えて試合への期待で話が盛り上
がった。まさに盛大な屋外での同窓会。

アルプス席を埋めつくした6000人の
大応援団は圧巻でした。近畿圏の学校
を除けば希有のことでしょう。気の毒
だったのがアルパイトの売り子さんた
ちでした。超満員にもかかわらず、全
員が夢中で応援しているためほとんど
売れないのです。プラスバンドにチア
ガールの応援のスタイルが定番化して
いる甲子園の高校野球で、旧制中学以
来の質実剛健を体現した応援ぶりは、
球場やテレビで観戦していた多くの
人達に古きが故により新鮮に写ったこと

でしょう。私も在学中応援団長を務め
させて頂きましたが、1回から8回ま
で(7回目の校歌を除く)違った応援
歌を歌うといった応援は前代未聞です。
最後に凱歌を歌えなかったのは残念で
すが、とても感動しました。

試合の結果は5対1。しかし応援席
にいた全員がその点差ほど差が無いこ
とを実感していました。勝負に「た
ら」「れば」はありませんが、3回の表
2死2、3塁でショートゴロがイレギ
ュラーしなければ……。翌日の『安積
奮闘』(毎日)、『安積不運』(朝日)の
見出しに象徴されるように、北信越優
勝の金沢高校を相手に全くの互角の試
合だったのです。残念の一言に尽きま
す。

21世紀初出場の我安積高校の奮闘、
宜野座高校の勝利。これが同じような
境遇にある高校球児たちに意欲と希望
を与えたことは間違いないでしょう。
田中監督のコメントと同じく、私達OB
も1時間41分の充実した至福の時間
を与えてくれた選手達に心から「ありが
とう」と言いたい。そして甲子園を揺
るがす凱歌を歌おう。

フレージャー、フレージャー、安積一
(映画プロデューサー)

いま 私にできること

相馬 匡 (68期)

「ハイ、カットOK!」監督の声が飛び、12月8日午前1時の大映第6スタジオ。スタジオ内で撮影に関わっていた60人くらいのスタッフ全員が私たち出演者に向かって拍手を送っていました。

某通信会社のTVCM撮影現場。

思い起こすと、丁度2年前、62歳で退職した時には私がCMモデルとして出演するなどとは、予想だに出来ませんでした。

今、私は64歳、定年退職後まる2年の中で日に日に新しい自分と向き合って生活しています。この2年間はすべて「0からの出発」でした。

その当座は、それまでの非常に忙しい会社生活で出来なかった事を、ひとつずつ丁寧に取り上げ実践してみようと思いました。

まずは絵を描くこと、JAZZを歌うこと……私はこの夢実現に向けて即行動を開始しました。

先ず、退職する直前に、退職1年後の10月30日から1週間を「絵の個展」をやる決め画廊をリザーブ契約しました。

そしてJAZZ。その3年前にボーカルとしてオーディションを受けて入団した18人編成のJAZZオーケストラでの役割を、気を新たに格格的に取り組み始めました。

退職1日目の早朝、絵の道具を背負いマウンテンバイクを駆って、見沼の自然の中に飛び出した時の感動は忘れることが出来ません。

早朝の低い太陽の光のまぶしさと、風のざわめきと小鳥の声と……。

その時、それまでの会社での重責から開放された「自由で真新しい自分」、
「軽やかな自分」を感じ取る事が出来ました。

「絵画」と「JAZZ」とは、この自由な自分を表現するには最もふさわしい、自然な欲求でした。

今、多くのチャンスを得てイラスト発表やJAZZ公演を行っています。

そんな中で、私のもう一つのライフワークである絵本創作で、私の絵本「お父さんの大きなポケット」が和歌山県が主催した「ジェンダーフリー絵本

大賞」を受賞することが出来ました。

4万部出版され、予想もしない多くの子ども達や多くの読者とお話するチャンスを得ました。

特に受賞を境にして、女子大学や地方自治体での講演の依頼を受け、多くの方々と出会って話し合うチャンスを得ました。

そこで、これからの社会での男女のあり方と男女の平等意識に関して、改めてその重要性を認識し、より暮らしやすい社会に向けて、ささやかでも力を尽くして行きたいと思っています。

「男女平等」楽しく学んで



自治体「ジェンダーフリー」絵本作製
 「お父さんの大きなポケット」が和歌山県主催の「ジェンダーフリー絵本大賞」を受賞し、4万部出版された。多くの子ども達や読者とお話するチャンスを得た。特に受賞を境にして、女子大学や地方自治体での講演の依頼を受け、多くの方々と出会って話し合うチャンスを得た。そこで、これからの社会での男女のあり方と男女の平等意識に関して、改めてその重要性を認識し、より暮らしやすい社会に向けて、ささやかでも力を尽くして行きたいと思っています。

保育園などで読み聞かせ

公募や作家の書き下ろし

「お父さんの大きなポケット」が和歌山県主催の「ジェンダーフリー絵本大賞」を受賞し、4万部出版された。多くの子ども達や読者とお話するチャンスを得た。特に受賞を境にして、女子大学や地方自治体での講演の依頼を受け、多くの方々と出会って話し合うチャンスを得た。そこで、これからの社会での男女のあり方と男女の平等意識に関して、改めてその重要性を認識し、より暮らしやすい社会に向けて、ささやかでも力を尽くして行きたいと思っています。

朝日新聞 (二〇〇〇年四月二十八日) より

彩色用ゴム製品で世界のトップを行く ————— 工業用精密ゴム製品製造



- ◇創業 1970年
- ◇資本金 4億7935万円
- ◇株店店頭登録
- ◇ISO9001 認証取得
- ◇ISO14001 認証取得

本社 〒330-0801 埼玉県大宮市土手町2丁目7番2号 tel.048-650-6051 (代表) Fax.048-650-5201 社長 伊藤 巖 (65期)
 大坂営業所 〒536-0016 大阪市城東区蒲生1丁目12番10号 京橋アドバンス21-205 tel.06-930-2521
 福島工場 〒969-0101 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地 tel.0248-53-3491 Fax.0248-53-3493

任地点描

駐ハンガリー大使のある日

糠沢 和夫 (68期)

大使の時間は、本省との情報のやり取りや他館のそのの転電を読んで頭に入れておくのが一番時間を取る。次いで、新聞・雑誌・放送による一般公開情報の吸収だ。社交の席で小耳に挟む事も頭に留め、仮説を作っては壊して、頭の体操もする。

ハンガリーのような親日的な国では、任国に対する依頼事は大抵聞いてくれ、さして時間を取らない。国連・安保理改革、国際機関幹部職の日本人候補への支持、日本からの訪問者とのアポ取り付け、館主催行事への出席依頼、など申し訳ないくらい次々と頼むのだが……。

文化行事への参加は比較的時間が取られる。これは、相手国や日本の民間の主権が多く、こちらは出席とスピーチをすれば良いので、税金を使わず只乗りである。

さて、晩秋のとある一日。

(1) ヴェレシュエジハーズ市(首都ブダペスト北東40キロ弱)に、植樹祭に出掛けた。三井泉という日本の彫刻家が、奥さんもこちらの人で可愛い双子の娘さんもいらっしやるし、地元で愛されているので、現地永住の構えだが、彼の彫刻作品を含めた日本との友好公園ができた。そこにシヴァルファという樹(木ササゲ;豆袋の形をした実が生る花樹)を市長と一緒に植えた。

僕は脇腹に、ルーマニアからの日本人巡回医に前日装着させられた24時間血圧計が重かったが、1.5cmほどの苗木を穴に立て、スコップで7回土をかぶせた。土地の名士もそれぞれスコップで一掬い。折から、雪になりたいよう

な雨がパラついていた。

小学生が36人、両国歌を歌い、さらに「さくら、さくら」、「秋の夕日に、照る山も一みじ」と、スコアを目で追いながらの可愛い声で斉唱が続く。この地を訪れるのは二度目だが、僕の名もプレートに刻まれ埋め込まれるというので、恐縮。三十年後にでも、東京に置いた“豚娘”二人が父の任地に遊び、それを目にする事があるか。

(2) 終って、市庁舎で歓談。飲み物の好みを聞かれて土地のパーリンカ(焼酎)を所望。地酒を頼むと嬉しそうな顔をするのは、日本も何処も同じ。が、何思いつい、張り切って、トランシルヴァニアの姉妹都市から贈られたパーリンカを振る舞ってくれた。

トランシルヴァニアは、第一次大戦後にルーマニアに取られてしまった土地だが、ハンガリー人の思い入れ深い土地で、ハンガリー人がまだ170万人も居住し、僕も訪れた事がある。パーリンカをしみじみ味わった。

市長さんの案内で、「1460m掘って、63℃の湯が出た」と彼がいう市内の温泉を見る。水着を着けた男女が、盛んに蒸気を上げる露天プールで楽しんでいる。ハンガリーは温泉が多い。老人ホームにも温泉が供給されており、こちらも訪問して様子を見、内心羨んだ。

前回訪問した際、入居者の一人に「体制転換は良かったですか」と聞いてみたら、「息子が悦んでるから、いい事だ」とご名答。親心は何処も同じ、と思ったものだ。

前回見た熊の放し飼い園の隣に、新たに狼の放し飼い場が出来ていた。「日本にも狼がいるか」と市長がお尋ねなので、「こういう種類のは絶滅した。スポーツ・カーに乗って女性を送りがてら襲う種類のはいるけど」と答えると、ニヤツと笑った。

三井さんの息子と館の安田名人が交互にマジヤール語の通訳をしてくれ、大いに助かる。

熊たちは、高い所から次々に放り投げられた廃鶏を貪っていた。近所に大きな養鶏所もあって、名産タマゴの産地だと言う。

川を堰きとめた湖が三つあり、釣り人が糸を垂れている。ブダペストから週末駆けつける別荘地でもある。埼玉県川口市と仲のいい市だ。市花は水蓮(タヴィ・ロージャ)。

(3) ブダペストでは、お葬式が待っていた。ハンガリー外務省の、旧知の前儀典長が大使として赴任した先のキプロスで亡くなられ、その野辺の送りだ。白髪の名物男だったが、とこちらも熱いものがこみ上げる。まだ、62歳。僕より若い人の死には、急ぎ立てられる感じもある。

僕も仲良しのトマイ・デーネシュ次官補(前の駐オランダ大使)が、友人代表で弔辞。

個人の略歴から、人柄の追憶に入る頃には、声がかぐもり、目頭を抑えて、度々声が途切れる。

金色の葉が夥しく舞い落ちる広い墓地で、奥様に弔意を告げて館に戻る。

(4) 館で待っていた巡回医が、ようやく血圧計を外してくれたが、記録の打ち出しを一瞥して、「悪い」との御託宣。

もう良くなる事はない、葉っぱのフレディ。「生きるだけは、生きる」がモットーだ。

1時間で電報を処理し、自分の人事について本省上司に書簡を認め、「全てお任せ」と記す。

帰朝までの日は100日を切った。

(5) 6時、科学アカデミーへ。前駐日大使のシュディ大使夫人の頼みに応じて係わってきた日本絵画・書道展がらみで、前日の応用美術館での開会の辞

☎ 0120-821-110

トランクルーム

家財保管

転勤・改築・建替等

FAXでも受付しています

☎ 0120-856-110 <http://www.wns.co.jp/flower>



い・わ・あ

引越センター

遠藤征志郎
(72期)

本社 東京都府中市白糸台1-23-10

関自振第1782号

に続き、今度は表彰者への挨拶の辞。日欧表現の違い、特に受け手の想像力に任せる俳句、対立を包んで詠嘆する小津映画、偶然性を悦ぶ日本の焼物などに触れ、そこにも理解を求める。公邸に戻ったのが7時半。

昼飯を食べ損ねたので、米国の選挙再集計や、とうとう政争から政局となった母国のニュースをJSTV（NHK海外放送）の画像で追いながら、茶漬けを掻き込む。

傍の仕事机のパソコンに、東京からのEメールが5本入っていたので、それぞれ答えているうちに、こっくり。11時就寝。

(6) 夜中に起きたら、元の職場の経団連から、図書館村橋さん発でいろは歌留多の「憎まれっ子世に憚る」についての僕の問い合わせ（「世に憚れず」が正しいのでは？）への答えが、FAXで来ていた。嫌がられ、憎まれるくらいの奴が、世間でさばる、の意という。

早い用例は「竹垣の世に出でたるや憎まれ子」。な一程。本当だ。日本外交にも参考になるか。

（前ハンガリー大使）

3年5組 教室掲示板

松津 光威 (71期)

休暇で日本に戻ったところ、留守宅にクラス会開催の案内状が届いていた。

私たちのクラスは、安積71期、卒業時のクラスは5組、堀内良一先生が担任でした。案内状には、本年（平成12年）5月に開催された安積71期会の席上、誰いうとなく、還暦を過ぎ人生も黄昏てきたことでもあり、クラス会を計画してはどうかとの話になり、世話人が会開催の音頭をとったと経緯が記されていました。

42年振り、初めてのクラス会は、10月27日、吾妻山中腹の微温湯温泉で開催されました。福島方面から土湯峠に向かうを道路を20分ほどドライブし、右に分岐し、車一台がやっとという山道を更に30分ほどドライブすると道路がとぎれ、そこが宿1軒のみの微温湯温泉でした。行き着くまで道路標識もない山道で1人でドライブしていたら

不安で戻りたくなるような辺鄙な山中でしたが、周辺は見事な紅葉の時期でした。

宿には既に4名ほど先着していました。卒業以来顔を合わせたことのない友ばかりで、顔を見つめ合って挨拶したもののお互いに名前がでてこない。暫く気まずい思いをした後、名乗り合っようやく昔の面影を思いだすといった有様でした。追い追い仲間が増え、卒業写真の拡大コピーを眺めながら出席できなかった仲間の消息を確かめたりしましたが、写真上の仲間全員の名前を確認するのになんと30分かかり、改めて42年という歳月を実感したものでした。

こんなことをしながら旧交を温めていたとき、幹事宛のゆうパックが届きました。あけてみると出てきたのがなんと教室掲示板でした。私は、この掲示板を正式になんと呼ぶのか分かりませんが、各教室の前方入り口の柱の上にかかっていたあの掲示板です。

テレビの学園ドラマに現れる教室掲示板は、大方の場合、戒名板を少し大きくした程度の板切れです。中央に「3-b」とか書かれていて、それで3年B組を示す真に愛想のないものですが、送られてきた旧校舎の掲示板は横約35センチ、立て約15センチ。ずっしりと重みがあって、地は黒の漆塗り。第13教室、担任堀内、HOME ROOMと上中下3段に達筆な白ペイントで記されていました（中段の「担任堀内」の部分は書き換えのできるペイントが使われていました）。

送り主は、卒業以来、妻子にも隠し、さぞかし大事に保管していたものと見えて、42年を経た掲示板とは思えないほど状態がよく、安積中学校時代からの歴史を物語っているようでもありました。

参加者一人一人、「おう」と声を出しながら、この掲示板をながめ、手にすると気持ちは一瞬のうちに安高3年生に戻り、思いで話も一層にぎやかになりました。

卒業式当日の僅かな隙に窓に上って掲示板をはずし、持ち帰るという機敏な仕業には感嘆しましたし、しかも、42年振りに仲間を送りつけ、クラス会を盛り上げるという送り主の心意気にも感心しました。

犯人探しも当然始まりましたが、参加者の中にこの掲示板を送ったものではなく、ゆうパックの消印である武蔵野市及び近辺に住んでいる仲間もいない。あれやこれや勝手な推測で名前がでてきても犯人としてぴんとこない。誰かが、堀内先生が仲間のことを一番知ってるからと「こういうことをやりそうな奴は誰かわかっばい」と尋ねると、先生は、「うん」とあごをぐっと引いて自信ありげに固有名詞をだされた。一同もなるほどと納得しながら遅れてきた本人に確認すると驚いて否定する。そのうち、一番やりやすい立場にいたのが先生だから、「やったのは先生ではないのかい」と言い出す仲間もいたが、「ばっかつ、俺がやるわけねえべ」と昔の口調のまま大喝される一幕もありました。

こういういたずらは大抵の場合仲間と共謀するか、あるいは、こっそりやったつもりでも目撃者がいたりして露見するのが普通ですが、結局犯人は分からずじまいでした。

クラス会に出席したのは、仲間48名中18名でした。数名が他界しており、また、所在の確認できない仲間もいて寂しい思いをしましたが、掲示板エピソードもあって大変盛り上がり、しかも、出席者全員がそれぞれ上手に年をとっていて愉快的なミレニアム還暦クラス会でした。

記念写真の際には堀内先生に掲示板を胸に掲げていただいたのはいうまでもなく、また、世話人が、掲示板を次回クラス会まで預かることになりました。しかし、世話人もいつまでも保管することは大変であろうし、我々も還暦を過ぎいつどうなるか分ったものではないので、私は、次回クラス会の際には送り主を含め参加者全員で旧校舎を訪れ、掲示板を元の13番教室に重々しく返還することを提案したいと思っています。

（イントネシア・メダン総領事）

モルト・ウイスキーの 味わいと フリーター問題

伊藤 庄平 (75期)

近年、シングルモルト・ウイスキーが静かなブームらしい。何故だと仲間から質問されることも多い。私も、シングルモルトには目のない方である。でも、ブームの理由はうまく説明できない。

思い当るのは、こんなことぐらいだ。

シングルモルトのウイスキーには硬派のイメージがある。シングルモルトのグラスを前にして、ワインのように講釈をたれる軟派風の飲み方はふさわしくない。違いのわかる男（または女）が黙って飲む、そんなハードボイルド的な酒である。黙って飲むから、ブームの理由も不明である。

それでも、もったいぶるな、説明せよという方もいるが、私も硬派の飲み方が好きだから、それ以上の説明はお断りさせてもらう。

どうしてもと言う方には、こんな情景を頭に描いていただくことにする。

明るくて、女性一人でも平気という雰囲気のパバーのカウンター。一仕事を終えた先輩男性社員とキャリア形成途上の女性社員が帰りがけの一杯。

「先輩が好きだというシングルモルトを飲つてみたい。教えてください。」と後輩女性。

「それは挑戦的だな。でも初めてなら大人しいのがいい。バーテンさん、こちらにマッカラン。」と先輩男性。

先輩に教えられ、優美な鼻をグラスにつつまみ、香りを嗅ぐ。「わあ。いい香り。シェリーの香りだ。」本来、ご法度だが、一旦香りを味えば水を入れてもいい。水を少し加えるのはもちろんよし。「こんなスムーズなウイスキー、初めて。」

さて、職場の愚痴も出始めたところで二杯目。「君もいろいろと大変なんだ。二杯目はラガヴェーリンなんかどうかな。」と先輩。

二杯目のグラスに、またも鼻をつつまむ。しかし、二匹目のどじょうはいない。「ちょっと何よ。この臭い。海水の燻製みたい。」

男はあわてず、「苦さの奥に楽しさや達成感があるんだ。モルトも仕事も。」

と先輩ぶる。

意を決してこれを口にした女性、「おつ。結構まるやかなんだ。」と一安心。飲み込んで「のど越しのスモーキーさが何とも言えない。」とまでおっしゃる。

一ヵ月後、この後輩女性、「仕事がうまくいなくて気がふさぐとき、あの海水の燻製、そうラガヴェーリンって言ったっけ。あれを飲むの。最初はちょっと勇気がいるけど、口の中にまるやかさが広がると、仕事も何とかなるわって気になるの。最近、すっかりファンになりました。」なんて、先輩に報告する。

とにかく、モルトの種類、熟成の年数によってかくも味が違うのだ。

話は全く変る。

大学等を卒業しても、アルバイトのような仕事を渡り歩き、その気楽さに浸り、正規の職業に就こうとしない、就こうと思いついても、アルバイト経験だけでは企業が採用してくれない、いわゆるフリーターが急増中である。目下は、約150万人と推測される。

若者が夢を持てるような仕事を提供できない社会が悪いと言う方もいる。どうだろうか。このようなフリーター擁護論は、たとえば、モルトウイスキーの何たるかを教えるに際し、香りもさわやか、口当たりもいいマッカランしか教えない先輩に似ている。どんな仕事でも、どんな組織でも、最初から甘くはない。

夢を見ようと思えば、ある程度の苦勞の先にその夢を求めなければならない。

近年の若い人には、最初はとつときにいくモルト、ラガヴェーリンのおいしさも教えずにはならない。

少々高くはつくが、増加する一方のフリーターが年齢を重ねた後に税金によるお世話、つまり社会的コストの対象となるよりはましであろう。

(前労働事務次官)

インターネット同窓会

村田 英男 (75期)

東京桑野会の皆様こんにちは。桑野会のインターネット活用状況を広告したくペンを取り（キーボードを叩きました。このレポートも電子メール上で作成し、東京桑野会事務局の斉藤英彦法律事務所の秘書のお嬢様から聞いたアドレスに直接入稿いたしております。

私が紫旗MLを知ったのは2000年9月の桑野会の総会でした。私の後輩の江川英男君（80期）が「村田さん、紫旗MLに入って下さい」と声を掛けて来ました。MLとはメーリングリストの略称で、一つのアドレスを発信すると登録者全員にメールが同報される仕組みです。

このMLの構築は94期千木崎君、新国君、田中君らが中心となって99年当初からはじめたようです。当然の事ながら参加者が94期が21人と最多です。年代別では75期の私（村田）と根本敏雄君が最年長、93期まで20人ほどがばらばらと加入しております。95期から107期までは3人～5人程度50人ほどで現在90人が参加、地区別では郡山が一番多いのは当然として、世界中に散らばっております。異色は親兄弟が皆安積高出身だからと言う理由で紅一点安積女子高卒業の矢部文さんがニューヨークから参加。こちらは女子用トイレも作らなくて済み一年前倒して男女共学です。

2000年10月には皆で郡山で顔合わせパーティ（オフラインミーティングと言う）も開催され、最年長の根本敏雄君は隊長、と呼ばれてご満悦、普段は息子（残念ながら安積出身で無い）と話すらしない私も自分の子供の年代の皆様にあつたわっていただき大感激でした。

ネットにつながる者は情報に早いです。普段はどこそこのラーメンは美味しいとか、そのような情報が流れております。しかし、年明けて2001年、地元郡山の人も何も知らないのに、紫旗MLではうすうす安積高の選抜出場のうわさが話題になっていました。1月12日の選抜「21世紀枠」候補に9校に

母校安積がエントリーされた時の情報も早かったです。春の選抜につながる事もいち早く全員知っていました。

更に安積の選抜出場の知らせは多くの方は1月31日の夕刻以降テレビニュース、新聞などで知ったはずです。私などは毎日新聞（選抜主催）系のテレビにチャンネルを合わ15時になると臨時ニュースのテロップが流れるのを待つようにとの情報を受け取っていた程でした。果して、15時丁度地元TVに安積高選抜出場のテロップが流れたたでは有りませんか。その後すぐに紫旗ML内では年代を越えて喜びのメールが飛び交いました。まさにこの時は私も皆と一体感を感じました。

パソコンはどうしても年記者は苦手なのでしょうか？ 前述の通り加入者の年代の重心が若い方に傾いています。是非この記事をお読みになった東京桑野会の熟年インターネットユーザーの皆様、是非紫旗MLに登録下さい。少しでも年記者向けに重心を移動して下さい。現在の所、最年長登録者である私からのお願いです。

尚、紫旗MLには<http://www.asakane.jp/~mkchigi/>から入ります。

(磐梯熱海紅葉館代表取締役)

酒宴の一考察

椎野 靖啓 (78期)

我が78期も昭和40年に安積高校を卒業以来38年が経過し、全国各地において世間の荒波にもまれ海難事故にも遭わず会社にへばりついている者、我慢出来ずに退社し自分で会社を起こした強者、学校時代の成績とは関係のない、社会の通信簿（人・物・金）を気にしながら21世紀を迎えた訳ですがこの東京地区にも結構な人数（現86名）が生息しております。50を超えたこの年齢になると、もうあくせく働く歳でもなく、残りの人生を精々謳歌したいと思う今日この頃であり、幸いにも我が同級生の元応援団で熱海出身の上野君が大手センタービルB1に「鞍手茶屋」を経営しており、ここを根城に同級生諸氏が集まれないかと、無い智慧を絞った考えが、つぎの内容であります。

今、世間の風潮はボーダーレス時代

と言われて久しいところであり、異業種間交流による新たな考え、新しい血、つながりが見えてくるものであります。同級諸氏も各方面で其れなりに活躍していることでもあり、そこでルールとしては、ある人が自分の好きな演題で酒宴の「サカナ」として30分程度話し、其の者が次回の「サカナ人」の指名権を得ると言うものであります。最初は提案者の小生でタイトルは、東京消防庁に勤務の関係から、たしか「建築物における消防の係わり」とかなんとかで、消防は火消しだけではなく建物が出来てから使用して無くなるまで、全てに絡むと言ったような気がします。次の指名が、東京桑野会副会長で我が同級生エースの櫻井君で真面目に武蔵野美術大の講師として使用したレポートなんか読み出して、たしか「まちづくりがどうの」だったと記憶している。次の指名が現在真面目な教育映画の監督業の吉井君で、昔エロ監をしていた頃の思い出話でタイトルは「銀幕の裏秘話」と記憶していますが、今や売れっ子の俳優も昔はこうだったとか、前バリを剥がすのを手伝ったとか、面白い話が一杯で大盛況でした。次の小野寺は一部上場の企業に勤務していた当時は、主に東南アジア関係を20数年渡り歩いた男で、現在当時のノウハウを活かして経営コンサルを営んでいます。タイトルは「リストラ請負人が行く」で、とにかくリストラして欲しい人がどの会社にもいるはずですが、彼の手落ちると大体三ヶ月で決まる様です。結構繁盛しているとのことでした。是非お悩みの方は一報下さいませ、同窓割引も考えますので?? これには同級生諸氏も真剣に聞き入っていました。次が川音君で彼はロシアとの貿易に長いこと携って来た男でタイトルは「ロシア酔狂譚」。たしか勤め先(株)萬平の「フカヒレ色々」を持ち込み上野君が三日掛かりで珍味を披露した筈です。次が(株)大修館書店勤務の池沢君で安積高校絡みのグッズ、例えば書物、バッチ、歴史物と絶版物が幾つか有りました。これは見事なコレクションでした。1月31日は、電気化学工業(株)の笹山君が「21世紀の経理」のタイトルで話してくれました。この様な訳で、大体三ヶ月間隔で集まって健康チェックも兼ねて飲む会を執行している次第であり

ます。残念なことに先週ニコノジステック(株)総務部長の影山君が酒と本に見守られて心筋梗塞で他界しました。酒仲間が又減ってしまいました。同級生一同合掌!!

(赤坂消防署長)

「著作権」とcopyright

永山 幸男 (82期)

出版社に勤めている者にとって、非常に身近な言葉に「著作権」があります。法律としても「著作権法」が存在し、そこには、この言葉に関連するいくつかの用語が定義されています。新聞雑誌などでも頻繁に登場し、一般的な日本語として、確実に定着していると言ってもいいでしょう。

この言葉が作られてどのように一般化していったのかはわかりませんが、最初は、英語のcopyrightの訳語だったと思われます。copyrightに「著作権」という日本語をあてたのは、「著作(者)」の「権利」というようなニュアンスが一目で理解でき、妥当なものだったと思われます。

しかし、英語のcopyrightという単語から、英語を母国語とする人たちはどのような印象を受けているのでしょうか？ 確かめてみたわけではありませんが、おそらく日本人が考えるような「著作」+「権」ではないように思えます。

彼らの耳に響くのは、「複製」+「権」ではないでしょうか。英語のcopyは、ごく日常的な英文の中に頻出しますが、ほとんどの場合、「複写」「冊数(部数)」「広告用の文案」といった形で使われており、基本的には、複写・複製から派生している意味合いで登場します。少なくとも、日本語のような、作者自身に帰属する「著作」あるいは「著作物」といったニュアンスは感じられません。

確かに、日本の著作権法では、著作権の具体的な権利の一つとして「複製権」をあげています。これなら、そのまま、copyrightイコール複製権ということになると思われますが、日本語の「著作権」イコール英語のcopyrightではないはずす。

さようなら“重箱” 椎野喜勇先生

山口 勇 (69期)

椎野先生ご逝去の悲しい報せが届いたのは平成12年3月3日午後5時のことである。その時味わったもの寂しさは言葉では言い表しようがない。

先生は終戦間がない昭和20年10月安積中学に人文地理の教諭として赴任し、昭和23年4月の学制改革を乗り越え、昭和43年3月までの23年間在職し、今日の安積高校の礎を築かれた恩師である。

先生は私の安高2、3年次の学級担任であり、2年生で人文地理を教わった。先生の風貌は先輩から連綿と受けつがれた“重箱”という渾名が如実に示すとおり、小肥りの身体の上に重箱そのものの角張った顔を乗せ、一見怖そうではあるが、よく見ると実にわれわれ生徒に対する慈愛と包容力に満ちていた。この“重箱”の渾名は先生ご自身お気に入りの様子で、自ら「十函子」と号して短歌や漢詩のものにされていた。

先生の人文地理の授業の始まりを、今も懐かしく覚えている。黒板に「環境決定論」「環境可能論」と板書し、滔々と環境と人間生活との関わりを論じ、黒板一杯に見事な一筆書きとも言うべき世界地図を描くのであった。その後度々この世界地図にお日にかかることになったが、先生自身いつも得意満面であったことを思い出す。

われわれのクラスは、おそらく学年で一番問題のクラスであったと思う。勉強に勤しむ者きわめて少なく、野球、柔道、体操、卓球、バスケットボール、サッカー、ハンドボールなどの部活動に励む者、演劇などにうつつを抜かす者ぞろいであった。授業態度もきわめて不真面目であった。ある先生の授業中黒板に向っている先生の眼を盗んでうしろの扉から菓罐をもって水を汲みに行き、戻って廻し飲みしたり、席に回ってきた先生にわざと音を立てておならをし「失礼」などと言う者ばかりで、椎野先生は「苦情を言われたぞ」と言うだけで、それ以上のお咎めはなかった。クラスの演劇部員が学年で率先して長髪を始め、みるみるクラスの

したがって、著作者の死後五十年で、著作権が「消滅する」というのも、私には少し妙に聞こえます。その社会にとって価値あるものとされる作品に対する著作者の権利は、死後五十年以上経っても尊重されるべきものであって、たとえば、いくら著作権が消滅しているからといって、その作品をどのように扱ってもよいのだということにはならないはずです。

消えるのは、その作者に属していた複製・頒布する権利です。では、日本語の「著作権」のニュアンスに近い英語は何でしょう？ それがどうもよくわかりません。その作者のオリジナリティ、プライオリティを尊重するのはあまりにも当たり前すぎて、特にとりたてていう概念ではなかったのでしょうか。日本では、そういった概念自体がなかったがために、著作権という言葉が作られたのだというような気がします。

(地人書館編集部)

原子の村から

昭和30年安女高卒 小泉 愛子

「桑野会」何と懐しい名前でしょう。御連絡をいただき、師走のあわたしきの中で、しばし、ふるさと郡山へ想いを馳せました。

思えば、私達が安女に在学した頃は、まだ、安高生安女生は、通学路もおのずと定められていた様な時代でした。

お互いに意識しあい憧れを抱きつつも、言葉を交すこともなく、出合いの場もないままに、三年間を過ごしたのがほとんどだったのではないのでしょうか。

安高恒例の仮装行列の時だけは、日頃きびしい先生方も、授業中にもかかわらず、見ることを許して下さり、窓から鈴なりになって眺めたものでした。

50年近い歳月をへた今でも、あの頃の甘酸っぱい思い出がよみがえって参ります。

その安高、安女も、今春より共学校として再スタートとのこと、時代の求めとはいえ、淋しい限りです。

かねてより、東京桑野会の皆様のご

活躍の様子をうかがい、私どもも大変うれしく思っていました。

ふるさととは、離れてみてはじめて、その良さに気づくものとか。先日、しばらくぶりに、二本松へ菊人形を見に行つて参りました。城跡から見える山並に、智恵子ならずとも、思わず感嘆、美しいふるさとを持つ幸せを、かみしめた旅でした。

現在、私は茨城に住んで居りますが、昨年のJCO事故の地元として、肩身のせまい思いをして居ります。

この地に住むものとして、かねがね気にはかけていたことではありましたが、やはり、当時は、事故が現実のものとなったことで、心の動揺は大きく不安な数日でした。

何しろ、正体の見えぬ相手ゆえ、テレビ、ラジオ、防災無線だけを頼りに、室内で、ただじっと、指示を待つばかりでした。さながら、戦時下の防空壕を彷彿させるものでした。

雨戸を締めぎって、うす暗い家の中に居りますと、ちょうど、ひたすら救助を信じて待ち続ける、ブリッグズの「風が吹くとき」の老夫婦の姿に、我が身が重なったりして、それは心細いものでした。

幸いに、事故現場からは離れていたために、直接的な被害はなかったものの、住民としての防災に対する考えの甘さ、知識不足を痛感致しました。

文明は常に人に幸せばかりを与えてはくれないものと、あらためて、強く感じた日々でした。

あれから一年、村内は平静をとりもどして居りますが、先般は、使用済み核燃料が、茨城の港から福島原発を経由して、青森に向け送り出されました。今、全国では50基をこす原発が稼働しています。

原子力は正に諸刃の剣。求め続ける人間の驕りを反省すべき時ではないでしょうか。そして、これこそが、21世紀の叡知に託される大きな課題のひとつではないのでしょうか。皆様の益々の御活躍をお祈り致します。

(日本児童文学者協会会員)

大半がそれに倣ったときも、先生は「Sの奴、演劇が終わったら髪を切ると言ったのにな」と言うだけであとは黙認と なった。

われわれ不肖の弟子は、安高卒業後「椎の実会」を結成し、毎年磐梯熱海温泉で先生を招きクラス会を催してきた。先生の古希の祝いは、東京在住の同級生が中心となって東京目白椿山荘の離れ家で先生ご夫婦をお招きして盛大に催し、翌日は歌舞伎座で観劇して頂いた。その時の先生の楽しそうなお姿をはじめ先生の思い出は尽きない。

(元福島県議会議長)

十函(重箱)先生を 偲ぶ

富田 正彦 (74期)

我が母高、安積高校の甲子園出場が実現しました。

春の選抜とは言え、永年の悲願であった野球部の甲子園出場は地元の卒業生はもとより、全国(あるいは世界)に散っている卒業生一同、まさに朗報であったに違いありません。

この出場は現役生徒の活躍が第一義であることは勿論ですが、先輩諸氏が脈々と築いてきた伝統の賜物とも言えると思います。

こんなこともあり、母校を出てから40年も経ちますが、当時のことを色々思い出されるこの頃です。

昭和33年の春、第74期生とし入学したとき、中学生時代との精神の在り様が、あまりにも違うのに驚いたことを、今でも鮮明に憶えています。

日本館の概観を真近に見たとき、又建物に入ったときの一瞬の暗さと、古い窓から差し込む光の不思議な明るさ、これが伝統校なのかと訳もなく感じ入っていたものでした。

また入学早々校庭に集められ、応援団による校歌と応援歌の練習。

文武両道や開拓者精神、大学進学の話など、頭の中が整理できないまま、色々なことが目の前を走っていったものです。

さらに、「ヤジュウ」「カッポン」「ホラテン」「ジュウバコ」「ペロテツ」…etc.先輩諸子が密やかに語っている時の意味不明の言葉、最初何のこともか理

解できなかったのですが、直に先生達の渾名であることが判明しました。つまらないようなこんなことにも未知を解決しようと、背のびをした思いが想い出されます。

ところで、ここでは「ジュウバコ」のお話をしたいと思います。私達2～3年生の時の担任をしていた椎野喜勇先生であります。担任を持ったのは私達が最後の様でした。椎野先生は、昨年(平成12年)3月、91歳で故人となりました。

当時、個性ある先生の中でも一きわ個性的ではなかったかと思えます。

誰が名付けたか知りませんが、「重箱」とは良く付けたものだどつくづく感心していました。みるからに三段重ねのいかつい箱に見えていました。

又、地理や、世界史の授業も一風変って(そう見えた)いて、教室に入ると直ぐに黒板一杯に世界地図を書き、それから本題に入りました。話も何か氣宇壮大な話となり、1000年も2000年も昔の歴史上の人物も、いかにも親しげに話をされるので、こりちらも勉強という感覚ではなかったようです。

細かな内容は記憶にありませんが、知識を詰めこめられたという意識は無かったと思います。

先生は、怖いのか、寛大なのか、守旧の方なのか当時は良く判りませんでした。私達が3年生になった頃、こんなことがありました。

悪友5人が最後の学年、何か思い出を作ろうということになり、5月の連休に自転車で2泊3日の猪苗代湖一周旅行を計画しました。

その2泊3日のうち、中1日は休めでない日があったので、代表格の鈴木建郎君が真面目にも重箱先生のところへ許可をもらいに行きました。

先生曰く「許可をもらいたいと言っても、そんなものは許可を出すようなことではないだろう。許可は出せない。しかし学校へ来ないのは何ともしようが無い。」

悪友5人は釈然としないまま集団の強気で計画通り決行しました。

高下駄をはきズボンにタオルを下げ、重たい自転車で出かけました。幸い天気にめぐまれましたが、当時の道路は未舗装がほとんどで、頭から土ホコリをかぶり身体中真白になって旅行をし

ました。

しかし大変楽しかった旅行でした。

連休明け学校へ行くと、先生は顔を見るなり、「皆んな来てたな」。たったその一言だけ言うと後は何も触れませんでした。

悪友5人はソツと胸をなでおろし、そのまま日常生活の中へ入って行きました。

今にして思えば先生とは会話らしい会話をほとんどしていませんでしたが、どこかで最後は生徒達を信頼してくれていたのだと、その時思いました。

先生は、漢文、漢詩に造詣が深かったのか、私達生徒によく論語などの引用語句で話をしていました。

その中で今でも印象深い言葉が、人間の究極の在りようというべきか、「それ怨^{うら}か」というのが常でした。

先生は、きっとその教えの通り寛大をもって、私達生徒を見ていたのでしょう。

あらためて御冥福をお祈りいたします。

蛇足ながら「十函子」とは重箱をもじり、先生自身の俳号に用いていました。自作の句集『霧笛』にもこの号を使用していました。渾名もここまで楽しまれるとは、先生も仲々やるなあとニヤリとした次第です。

(郡山市役所)



編集後記

●一番の関心事である、共学化の話題が多くなってしまった。いよいよ安積新時代の幕開けである。これまで、諸先輩が築き上げてきたすばらしい伝統に、新しい伝統を積み重ねてくださることを“新安積健児”に期待したい。“健児”は英語では“Vigorous Youth”らしいので、拡大解釈してこれからも使わせてください。(85期 村上昌弘)

●2001年4月ついに母校安積も共学となってしまいました。それならいつそのこと東京桑野会も共学にしてみたいかか? そんな発想でみなさんご存知の東京花かつみ会(安女の卒業生の会)に呼びかけ挿絵の参加をお願いしました。そして颯爽と登場されました方が1935年生まれ女子美卒の画家久富良子さんです。活発に作品を発表されており絵自体が作家の熱き血潮そのままに躍動しているようで力強さを感じます。久富さんと本会報のご縁をとりもっていただきました花かつみ会会長の山岡文子さん、幹部の岩脇和子さん、それに私と同年の木下俊江さんにお礼を申し上げます。この試みに東京桑野会の諸幹部に打診したところ大津さんから「ウーン」と了解を得られず、激論の挙句斎藤幹事長が「インジャナイ」との一言があり実現に至ったことをもって後記とさせていただきます。直後にビッグニュースあり。母校野球部甲子園出場とのこと。あゝ、百年越しの恋、燃ゆ。(74期 高松豊)

●21世紀初めての会報編集の真最中に、母校甲子園出場というビッグニュースが飛び込んで来て、記事の入れ替えや書き直しと編集の難しさを体験した。わずかな期間だったが、野球部に籍を置いた者として後輩の野球部員には月

並みだが「出場おめでとう」と言いたい。毎度のことだが、記事や広告掲載では同期の諸兄に強力をいただいている。この機会に感謝申し上げる。

(71期 増子邦雄)

●「21世紀枠」という粹な条件をクリアしての百年待った甲子園。名分もさることながら、それに値する実力も評価されてのことと信じたい。夏は代表が「一県一校」となる以前、県では2連覇するも甲子園行きを絶たれた時代からも既に50年。当時の母校のバッテリーを私のアルバムから紹介する。昭和26年、50年前の野田投手と酒井捕手の雄姿である。私は在校1~2年生。福島信夫丘球場(県優勝、東北大会準優勝)、山形県営球場(県優勝、東北大会準決勝敗退)、仙台宮城野球場(国体で同年夏の甲子園準決勝の八尾高校と対戦)と連戦参加(応援のみ)が昨日のようだ。そして21世紀の今年、夢にまで見た「ほんと」の甲子園に出会う。

(67期 水口禎)



事務局便り

●会報の発送は、会員各位の住所動向に大きく左右されてしまいます。住所が変わっていると、せっかくの会報も戻ってきってしまうので、住所変更の際は東京桑野会の事務局まで、ご連絡下さるようお願い致します。安積桑野会の方にご連絡された方も、ご面倒でも東京桑野会の方にもご連絡下さい。

●総会の出欠葉書を同封していますが、事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入して下さい。時々ご自分の期と卒業年を間違えておられる方がいらっしゃいますが、会報をお送りした封筒の宛名ラベルの右下に記入してあるのがご自分の期ですので、お間違えないようお願い致します。勤務先は変更がなければ省略していただいても結構です。

そして、連絡もれもあるかと思われまますので、お誘い合わせのうえ、多数のご出席をお願いします。

『東京桑野会会報』No.23

2001年5月1日発行

発行・編集人 ■古川 清

発行所 ■東京桑野会事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-3-8

YKB新宿御苑804

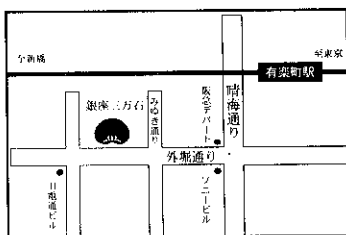
斉藤法律事務所気付

Tel 03-3356-6677 Fax 03-3356-6678

製 作 ■株式会社パンオフィス

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-2-7

Tel 03-5280-9690 Fax 03-5280-9691



和菓子司
銀座 三万石

東京都中央区銀座6-4-8 TEL 03-3575-0007
本店 郡山市駅前2-2-13
代表取締役 池田惣一(71期)・池田仁(103期)

つぶ餡に栗の小粒をあしらった、自然海塩で塩味をほのかにきかせました。

